

野辺地町まち・ひと・しごと創生総合戦略 効果検証結果 一覧表

基本目標名	施策名	具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価	
			指標	目標値(H32年)	実績値(H30年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	コメント等
①「郷土の産業・労働分野を創る」	①-1 「みちのく丸」を拠点としたペイフロント計画	のへじ常夜燈朝市の開催(水産業・農業・商業・観光・民間の連携)	朝市の売上高【野辺地町調べ】	年間900万円		評価対象外事業※実施の目途がたっていないため					
		物販・交流施設等の整備・促進	物販・交流施設等来場者数【野辺地町調べ】	年間3万人	41,426人	一定の進捗がある	来場者数が目標を上回ったことから。	更に発展させる	来場者は目標値を上回っているが、レジカウントは目標に達していないため、リピーター客に視点を当てた取り組みの検討。	KPI達成に有効であった(10人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(0人)	●施設整備を進めていただきたい。評判の拡散は早いと思います。
		水産加工品の開発・販売	開発する加工品の種類【野辺地町調べ(町漁協との連携)】	5年間で累計3件		評価対象外事業※実施の目途がたっていないため					
		国内外へ向けた「みちのく丸」利活用の推進	ロケ地活用件数【野辺地町調べ】	5年間で累計5件	0件(累計3件)	一定の進捗がある	H30年の実績は無かったものの、雑誌等に取り上げられたほか、映画への使用の打診も受けるなど、周知効果が出てきたため。	事業の継続	「みちのく丸」だけをPRするのではなく、特産品や食と組み合わせるなど、複合的なPRに努め、ロケ地活用を目指す。	KPI達成に有効であった(7人) KPI達成に有効であったとは言えない(6人) その他(0人)	※委員からのコメント特になし
		国内外へ向けた「みちのく丸」利活用の推進	寄附件数【野辺地町調べ】	5年間で累計30件	6件(累計23件)	進捗している	5年間で累計30件に向けて着実に件数が増えていることから。	事業の継続	「みちのく丸」の維持保存に努めながら、周知PR等これまで同様の事業を継続することでKPI達成が見込まれるため。	KPI達成に有効であった(8人) KPI達成に有効であったとは言えない(4人) その他(1人)	●クラウドファンディングを利用することで、「みちのく丸」のニーズを図る参考指標となることから、単に「寄附」件数としない方が良いと考えます。 ●維持保存をすべきか検討すべき。年間維持費等も数値化しながら、方向性を見出す必要がある。
	①-2 農林水産業の活性化	後継者及び担い手の育成・確保	新規就業者数(農業・水産業)【野辺地町調べ(農協・漁協と連携)】	5年間で累計11人	10人	一定の進捗がある	新規就農者を3名確保することができたが、担い手不足解消のためにさらなる掘起しに努める。	事業の継続	積極的なトップセールス等を通じて、引き続き、広報活動を実施する。目標年度(H32)までにリタイアする農家が増加すると見込まれるので、担い手の確保と経営安定のために必要と思われる。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(1人)	●新規就農者にはもっと手厚いフォロー、バックアップがないと、リタイアする人が増える。
		農地規模拡大交付金の創設	規模拡大実施件数【野辺地町調べ】	5年間で累計5件	13件	一定の進捗がある	目標値を達成しているが、新たな担い手への農地集積を行うために引き続き周知を図る。	事業内容の見直し(改善)	国が実施している農地の出し手への事業見直しが行われたため、当事業も見直し必要がある。	KPI達成に有効であった(10人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(0人)	●三本木農業高校へ、こかぶ農家さんとのタイアップや、紹介等、若い世代を取り込む工夫があれば良いと思います。
		農業経営の法人化の推進	農業法人件数【野辺地町調べ】	5年間で累計3件	2件	一定の進捗がある	法人化を推進し、順調に進捗している。	事業の継続	事業は順調に進捗しているが、経営の多角化や後継者確保のため、事業を継続する。	KPI達成に有効であった(8人) KPI達成に有効であったとは言えない(4人) その他(1人)	●純粋な野辺地町の農家法人ではないため、今後の法人化をすすめる農家を選定していかなければならない。
	①-3 味・特産品を生かした新たな雇用創出	野辺地の美味しいを探る	野辺地ならではの料理が常時食べられる飲食店の件数【野辺地町調べ】	5年間で累計10店舗	0件	進捗していない	KPI達成に向けた事業の取り組みにいたっていない。	事業内容の見直し(改善)	KPI達成は困難である。指標を「常時食べられる」から「限定等」に見直すなどで検討するほか、郷土料理を伝え残すも取り入れた事業内容として考えたい。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(11人) その他(1人)	●何故、取り組みにいたらなかったのかよく検討する必要がある。 ●野辺地町の食のPRのため、早急に改善策を実現していただきたい。 ●達成してはいないでしょうが、努力はしておられます。今後も、「郷土の味」は残していってほしいです。
	①-4 野辺地工業団地への企業誘致推進	野辺地工業団地への企業誘致の活動	誘致企業数【野辺地町調べ】	5年間で累計2社	0社	あまり進捗していない	企業からの情報は得ているものの、誘致計画の策定までいたっていないため。	事業の継続	引き続き、協議を行っている企業への誘致活動を進めるほか、青森県東京事務所とも連携し、旧農工団地への誘致も含め取り組んでいく必要があるため。	KPI達成に有効であった(1人) KPI達成に有効であったとは言えない(11人) その他(1人)	●セールスする以前に、企業が何を求めているか、どんな場所に来たいのかを理解し、その準備ができていないのか検討しなければならない。 ●すぐに結果が出ることはないため、継続して頑張っていたきたい。
	①-5 産業・雇用創出対策の強化	事業者(法人、個人等)への支援	新たな起案件数【野辺地町調べ(町商工会との連携)】	5年間で累計35件	2件	一定の進捗がある	起業者があったため。	事業の継続	創業支援を考えている方への後押し並びに町の活性化に繋がる事業として、引き続き、補助金事業及び相談事業を継続したい。	KPI達成に有効であった(6人) KPI達成に有効であったとは言えない(6人) その他(1人)	※委員からのコメント特になし

基本目標名	施策名	具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価		
			指標	目標値(H32年)	実績値(H30年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	コメント等	
② 郷土の住みやすさを実現する 生活環境・生活基盤分野	②-1 周辺市町村ベッドタウン化推進計画 《転入推進対策》	転入者に対する定住促進の強化	補助金を活用した転入者数【野辺地町調べ】	年間3世帯5年間で累計50人	0人	進捗していない	業務量に対し、十分な人員が配置されておらず、事業実施にいたっていないため。	事業内容の見直し(改善)	根拠となる規定及び財政的裏付けが必要であるため。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(10人) その他(3人)	●ベッドタウン化は、力を入れるべきと思います。	
		空き家・空き店舗バンク制度	バンク制度利用件数【野辺地町調べ】	5年間で累計15件	評価対象外事業※実施の目途がたっていないため							
		防災に優しい町への強化	自主防災組織件数【野辺地町調べ】	5年間で累計10団体	8団体	進捗している	平成30年度、1団体が結成し、合計8団体が組織。	更に発展させる	自主防結成した団体に対し、活動費を一部助成することにより、負担を軽減することや、資機材整備を支援する。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(1人)	●防災力を今後も継続により強化して欲しい。 ●最近の災害規模を考えると、今の状況では心もとない。さらに強化する必要がある。	
	②-2 都市と農山漁村交流の推進	体験移住(おためし居住)への支援	体験者数【野辺地町調べ】	5年間で累計20人	1人(累計2人)	あまり進捗していない	1名利用者がいたが、利用者数が少なく周知不足である。	事業内容の見直し(改善)	補助金の額や周知方法など見直しが必要であるとする。	KPI達成に有効であった(2人) KPI達成に有効であったとは言えない(9人) その他(2人)	●周知方法の再考が必要。 ●外部団体と一緒に取り組んで、周知方法も工夫して欲しいと思います。	
		②-3 町営等の住宅整備 《転出抑制対策》	子育て支援等住宅整備の推進	子育て支援等住宅入居者数【野辺地町調べ】	年間5世帯	評価対象外事業※実施の目途がたっていないため						
	②-4 災害避難地の提供	移住の促進を目的とした首都圏向け災害避難地の提供	体験者数【野辺地町調べ】	H29～31年の3年間で累計100人 ※災害時の場合を想定した指標は設定しない	0人	進捗していない	業務量に対し、十分な人員が配置されておらず、事業実施にいたっていないため。	事業内容の見直し(改善)	仕様を早急に定め、予算要求する。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(9人) その他(4人)	●事業の廃止も含めて抜本的な見直しが必要ではないでしょうか。	
③ 郷土の人の身体と心を守る 福祉・保健・医療分野	③-1 結婚支援対策の推進	「街コン」開催への支援	「街コン」の出会いによる結婚件数【野辺地町調べ(町商工会との連携)】	年間2件	0件	進捗していない	H30の実績件数が「0件」であったため。	事業内容の見直し(改善)	結婚支援対策は今後ますます必要性が高まると考えられるが、街コン開催での支援は参加者が集まらないことなどから難しい。令和元年度は「婚活相談会」「婚活広報物(コースター)配布」の実施を予定している。	KPI達成に有効であった(0人) KPI達成に有効であったとは言えない(10人) その他(3人)	●本気でやるなら、テレビ番組を活用するのも一手。 ●事業内容の見直しが必要です。	
		乳幼児医療費の無償化(未就学の所得制限の見直し)	就学前児童のいる世帯【野辺地町調べ】	350世帯	292世帯(386人)	進捗している	所得撤廃したことにより、全未就学前児童に対するの医療費助成は子育て支援の一環として担っている。	事業の継続	子育て支援対策からも継続していく。必要性が高く、現物給付化しており、効率的でもある。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(1人)	●所得制限の撤廃に関しては、例えば小学生までは無料、中学生からは所得制限あり等、年代で分けることはできませんか。小さい子ほど医療費がかかっていると思うので、その部分だけでも無料にするなどの計画はできないでしょうか。 ●医療費助成は非常に良い取り組みであり、所得制限については撤廃が無理なら緩和し、対象を拡大してほしい。	
	③-2 子育て支援体制の強化	保育所利用料の特例の拡充(同時入所の児童がいる場合の第2子無料化)	入所児童数【野辺地町調べ】	年間370人	335人	一定の進捗がある	平成30年度町内保育所定員325人。定員外入所を含め、平成30年度3月1日現在の入所者数335人。前年度に引き続き、平成30年度においても、入所者数は、4月よりは増加傾向にあり、ある程度の効果が現出していると思われる。	事業の継続	子育て家庭の経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てる環境を整えるため、継続する。	KPI達成に有効であった(13人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(0人)	●子育て世代にとってはとても良い取り組み。	
地域子ども・子育て支援事業の充実		利用者数【野辺地町調べ】	＜放課後児童クラブ＞登録児童:年間120人 ＜地域子育て支援拠点＞延べ人数:年間2,000人 ＜延長保育＞延べ人数:年間7,500人	＜放課後児童クラブ＞登録児童:年間109人 ＜地域子育て支援拠点＞延べ人数:年間1,110人 ＜延長保育＞延べ人数:年間8,568人	一定の進捗がある	放課後→登録児童数の増加により、社会資本整備対策の必要性が現出。支援拠点→保護者の共働きにより事業の利用者は減少したが、今後も継続して子育て中の親子の交流や育児相談等の場の提供をする。延長保育→目標値は達成したが、今後の事業拡大について検討・実施する。	事業の継続	保護者の就労形態の多様化等に伴い、今後も保育ニーズの高まりが想定されるため、事業を継続して実施する。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(2人) その他(0人)	●もっと受入態勢を整える必要がある。		

基本目標名	施策名	具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			担当課における内部評価				外部有識者からの評価	
			指標	目標値(H32年)	実績値(H30年)	効果検証	理由	今後の方針	理由	事業の評価	コメント等
③ 郷土の人の身体と心を守る 福祉・保健・医療分野	③-3福祉・医療の充実	地域医療体制の充実促進	小児急病、夜間受け入れ体制等の勉強会の開催(北部上北広域事務組合等との連携) 【野辺地町調べ】	勉強会の開催		評価対象外事業※広域事業のため					
		中核病院、産科、小児科など受診者の通院交通費助成	妊婦健康診査等交通費助成の利用者 【野辺地町調べ】	年間85人 ※通院支援制度の拡充	60人	進捗している	妊産婦の負担軽減のために、多胎妊婦への妊婦健診を最大7回まで追加し、内容をより充実させた。しかしながら、少子過疎化の実情から妊娠届そのものが減少傾向であるために、H32年までの目標達成に向けた妊娠前から子育て世代を対象とした新たな行政サービスを今後検討していく必要がある。	事業の継続	今後も妊産婦の身体的・精神的・経済的負担軽減を目指し、事業は継続していくが、今後、さらなる見直しも必要となる。	KPI達成に有効であった(13人) KPI達成に有効であったとは言えない(0人) その他(0人)	※委員からのコメント特になし
		妊婦への支援	件数等 【野辺地町調べ】	<マタニティサロン> 利用者:年間80人 <妊婦健康診査公費助成> 利用者:年間130人 <救急システム> 情報提供者:年間100人 <妊産婦、新生児訪問> 100%継続	<マタニティサロン> 利用者:年間21人 <妊婦健康診査公費助成> 利用者:年間88人 <救急システム> 情報提供者:年間55人 <妊産婦、新生児訪問> 100%	一定の進捗がある	マタニティサロンについては、外部機関へ依頼して特別講座を組み入れ、その中で保健師も健康教育を実施する等引き続き内容を充実。妊産婦の負担軽減のために、多胎妊婦への妊婦健診を最大7回まで追加した。妊婦の救急時情報提供システムでは母子健康手帳交付時に周知しているだけでなく、転入妊婦や里帰り妊婦にも周知を徹底し、登録に結び付けている。	事業内容の見直し(改善)	平成31年度から、マタニティサロンについては、これまで実施していた特別講座に代わり、妊婦家族や就労している妊婦が参加しやすいよう日曜開催日を設け、ニーズと必要性の高い内容を実施することにより参加者の増加、目標値の達成を目指す。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	※委員からのコメント特になし
		成人保健事業の充実(死亡原因一位のがん対策等)	就労世代の健(検)診受診率 【野辺地町調べ】	年間45%	8.8~30%	あまり進捗していない	受けやすい健診体制づくりを進め受診者数が伸びた健診もあるが、全体的な受診率は目標値に届いていない。目標値達成に向け今後更なる改善が必要になると考える。	更に発展させる	今後も検診再勧奨を効果的に実施する予定。また、「総合健診受診カード」をさらに見やすく改良することで受診行動に結びつける。平成30年度に実施した野辺地町総合健診受診動向調査分析事業の分析結果を活かし、健診体制の見直しと受診率向上を目指す。	KPI達成に有効であった(9人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(1人)	●町で捉えている未受診者の一部は勤務先の各種検診を受けていると思われる。今後も、実質的な未受診者の把握と受診勧奨に努めていただきたい。 ●受診者の意識を変えていく手段を考えていかなければならない。
		高校生に対する学力向上の支援	国公立4年制大学への合格者数 【野辺地町教育委員会調べ(県立野辺地高等学校、八戸学院野辺地西高等学校との連携)】	年間 町内にある二つの高校の合計10人	3人	一定の進捗がある	これまでに本事業を利用したことのあるH30年度卒業生7人のうち、2人が国公立大学に進学している。	事業の継続	夏季講習、冬期講習さらに語学研修の募集を継続して行い、本事業を利用した卒業生の進学先について効果検証を引き続き行いたい。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(2人) その他(0人)	●高校生だけではなく、中学生の塾(短期講習会)もあってほしいです。有料でも参加したい人はいると思います。 ●野辺地町へ講師を招いての講習会を希望します。講師の方々にも野辺地町の良さを知ってもらえる良いチャンスとなる可能性も大である。
④ 郷土をまます愛し育む「入財」を育てる 教育・歴史・文化分野	④-1確かな学力・豊かな心・健やかな体の3つの調和のとれた「野辺地っ子」の育成	異文化交流の推進	事業実施の始まりと終わりに英語力テストを実施 【野辺地町教育委員会調べ】	参加者平均点:最初のテストから最後のテスト10%増	19%	一定の進捗がある	レベルにばらつきがあるものの、継続して参加している人は英語でのコミュニケーション能力向上に一定の効果が出ている。	予定通り事業終了	令和2(2020)年度からの新学習指導要領への移行に伴い、外国語教育をより充実させるために小中学校でのALTの活動時間を増やす。	KPI達成に有効であった(10人) KPI達成に有効であったとは言えない(3人) その他(0人)	●予定通り事業終了とあるが、内容が、異文化=英語と捉えられ、文化に触れていない感じがする。
		家族ふれあい読書デーの継続	家読実施世帯率(小学校) 【野辺地町教育委員会調べ】	55%	-	あまり進捗していない	H30年度は家読実施世帯率調査を実施していないが、乳幼児、児童の図書館利用人数や貸出冊数、図書館行事への参加者の数値はほぼ例年通りであり、大きな変化はみられなかった。	事業の継続	事業を継続しつつ、小学生にとって最も身近な本と触れ合う場所である学校図書館の環境を整えるほか、町立図書館に家族で足を運んでもらえるよう広報活動を積極的に行う。	KPI達成に有効であった(4人) KPI達成に有効であったとは言えない(8人) その他(1人)	●図書館利用と併せ、利便性からタブレット端末等での電子書籍利用も増加していると思われる。 ●開館時間が延びることにより、町民の利用が増えます。仕事終わりの方が立ち寄れることが望ましい。
		競技スポーツの強化	対象者 【野辺地町教育委員会調べ】	年間受賞者 全国大会入賞<個人>2人 全国大会入賞<団体>2団体 東北大会3位以内<個人>10人 東北大会3位以内<団体>10団体	全国大会入賞<個人>2人	一定の進捗がある	小学校、中学校、高等学校ともに支援事業を実施して、全国大会や東北大会への権利を獲得した競技団体や個人において、多少であるが増加傾向にあったが、30年度は停滞した。しかしながら事業を継続することにより、大会に向けての意識や競技力の向上・コンディショニングすることができるため、モチベーションやパフォーマンスを上げるには有効的な事業と考える。	更に発展させる	これまで事業の周知、実施を図った結果、ある程度の事業の浸透性が図られたものと考えられる。これからは各種競技団体や学校については、選手の育成と競技力の向上を期待し、目標値を超える成績を熱望しながら継続していきたい。	KPI達成に有効であった(11人) KPI達成に有効であったとは言えない(2人) その他(0人)	●上位大会へ出場できるような選手の育成に力を入れていった方がよい。 ●郡大会等の下の大会も対象にしてはどうか。県大会以上の大会への励みにつながるのではないかと。
	④-2心身ともに健康な人づくりの推進	スポーツを通じた健康づくりの推進	健康数値が良くなった参加者の割合 【野辺地町教育委員会調べ】	90%	・ウォータマラソンスタンプラリー健康数値がよくなった割合-33% ・水泳教室の利用者数:112人	一定の進捗がある	健康ウォータマラソンスタンプラリー(健康アンケートの結果をもとに検証する)健康となったと感じている人15人中5人 33%であったが、運動が習慣化したと感じる人が15人中13人 87%おり、健康になったと感じる人、運動が習慣になったと感じる人ともに割合が増加している。 水泳教室の利用者数→29年度に続き、幼児の部で定員割れ、児童の部においても定員割れとなった日程があった。	事業の継続	健康ウォータマラソンスタンプラリー → 事業を継続し、健康増進に努める。「健康アンケート」の継続。目的が体力の向上や仲間づくりの目的が多く、健康づくりを意識させた取り組みが必要となる。 水泳教室の利用者数 → 水泳教室の内容の充実。なお、委託している指導者に制限があるため、募集定員及び開催回数の限度がある。子どもの健康増進を図りながら、要望等にも適切に答えて開催していく。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	●マラソンスタンプラリーでは、期間限定パスポートがほしい。
	スポーツを通じた健康づくりの推進	利用者数 【野辺地町調べ】	300人	512人	進捗している	平成29年度から事業拡大した結果、目標値を超えた利用者数となったため。	事業の継続	平成29年度から事業拡大し、利用者も一定の人数がいることから、今後も本事業は継続すべきである。	KPI達成に有効であった(12人) KPI達成に有効であったとは言えない(1人) その他(0人)	※委員からのコメント特になし	

※全31項目のKPIのうち、26項目のKPIについて効果検証を実施。